

株式学習ゲームにおける

「見方・考え方」そして「思考力・判断力・表現力」

—新学習指導要領(公民的分野)を読み解き、その趣旨を株式学習ゲームに取り入れる—

横浜市立潮田中学校 力丸 剛

1. はじめに

いよいよ平成 24 年度より、中学校でも新学習指導要領が完全実施されることになる。あと1年余りである。現1年生は、3年生になった時点で、新教育課程での学習を始めなければならない。そのためには、地理・歴史・公民分野の学習内容・学習指導の展開を対応可能なものに改めていくという事前の取り組みが、すでに迫られている。

ところで、今回の改訂の目玉は、「“脱”ゆとり教育」などと言われ、世間一般では授業時間数、学習内容の増加などが話題となっている。これを受けるとランドセルメーカーでは、“A4 サイズのファイルと厚い教科書がたくさん入る。”を売りにして差別化を図ろうとしている会社もある。が、しかしである。“授業時間数や学習内容を増やせば、文部科学省が掲げる教育の理念である「生きる力」が本当に身に付く!?”ということに関しては、誰もが聊か疑問を持っているのではないだろうか。

振り返れば、平成 19 年度の中央教育審議会教育課程部会「教育課程におけるこれまでの審議のまとめ」(平成 19 年 11 月 7 日付け)のパンフレットは、

「生きる力」

「理念」は変わりません。指導要領が変わります。

という書き出しから始まる。そこでは「生きる力」とは、

○基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようと自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

○自らを律しつつ、他人とも協調し、他人を思いやる心や感動する心の豊かな人間性

○たくましく生きるための健康や体力 など・・・(*1)

と明記されている。筆者も、人間性(力)・体力(健康)・学力が相互に関連し、高め合いながら世の中でたくましく生きる総合的な力(深さ・強さ・広がり)が獲得されていくと考えている。但し、本論文において、人間性(力)・体力(健康)についても論述することは、テーマの範囲を越えると考えられる。故に、教育の理念である「生きる力」という原点に立ち帰りつつも、特に学力に的を絞って、かつ学習指導要領との関わりについて考察する。

そこで、「生きる力」を育む学力を

①基礎・基本を確実に身につける。(基礎・基本の習得)

②いかに社会が変化しようと自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。(活用・探求⇒思考・判断・表現)

と捉え、「互いに補完しあいながら相乗効果を高めるためには、どのような学習内容、学習指導の展開が求められているのか。」について、新学習指導要領(公民的分野)を読み解き、その趣旨を取り入れるというサブテーマにそってまとめていく。

さて、①については、諸テストの結果などから、学力低下が大きく取り上げられ、その中でも特に基礎・基本的な知識・理解に関する学力不足が注目され、百マス計算をはじめとする反復学習に関心が集ったのはご承知のとおりである。ところが、その過程において、いつの間にか生きる力を支える「確かな学力」という捉えが、基礎的・基本的な知識・技能の習得そして定着ということに置き換えられてしまったという懸念はないだろうか。そこで、もう一度「生きる力」に立ち返りその趣旨を生かすためには、この激動の時代(特に、サブプライムローンに端を発したリーマンショック後のここ数年は、まさに激動の時代である)にこそ、基礎的・基本的知識・技能の確実な習得ということと相まって、いかに社会が変化しようと自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる学習の重要性が、増してきているのである。

2. 新学習指導要領が求めている学力と株式学習ゲーム

さて、ここからは、前述の記述を踏まえつつ、株式学習ゲームをツールとした学習における「生きる力」、特に「いかに社会が変化しようと自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を養うことを目指す学習について、論述していく。

まず、「株式学習ゲーム」を通して身につけさせたい資質、能力とは・・・どのようなものなのだろうか。それを、筆者は、

動く株式を、動かない(ぶれない)眼で捉えることができる資質、能力

↓

投資においてカギを握る有用な情報を収集・選択し、見方・考え方(基本的経済概念から形成される概念的枠組み)を基に分析・予測し、結論に至る過程をも含めて思考・判断・表現する力

であると考えている。さて、この「見方・考え方」、「思考・判断・表現」は新学習指導要領

においても資質、能力について考える際の大変重要なキーワードになっている。そこで、次に、新学習指導要領で、「見方・考え方」、「思考・判断・表現」をどのようにとらえているのかを明らかにし、その趣旨を「株式学習ゲーム」では、どのように生かしていくかについて考察する。

I. 「見方・考え方」

筆者は、新学習指導要領の中で、特に次の記述が端的に今回の公民の改訂の趣旨を映し出していると考えている。

新学習指導要領の公民的分野 3 内容の取扱い ※

イ 生徒が内容の基本的な意味を理解できるように配慮し、日常生活と関連づけながら具体的事例を通して政治や経済などについての見方や考え方の基礎が養えるようにすること。その際、制度や仕組の意義や働きについて理解を深めさせるようにすること。

整理すれば

- 基本的な意味を理解できるように配慮する。
- 日常生活と関連付け具体的事例を示す。
- 政治や経済の見方・考え方を養う。
- 制度や仕組みの意義や働きについて理解を深めさせる。

となり、まさに、新学習指導要領の公民的分野における学習指導の展開の要点が示されていると言えよう。さらに続く解説では、『今日、グローバル化、情報の進展をはじめとして社会は大きく変化しており、今後、国民が生活上の様々な新しい問題に直面していくことが予想される中で、国民生活の諸問題は国民経済の動向や政治の運営の在り方に関連して生じるものが多い。従って、国民が変化する社会の様々な問題に主体的に対応していくためには、現在の政治や経済についての見方・考え方の基礎をしっかりと養っておくことが一層重要となるのである。そのため、具体的事例を通して政治や経済などについての見方や考え方の基礎が養えるようにすることに重点を置いた学習指導の展開が求められているのである。』※と記述されている。

さて、ここで取り上げている「見方・考え方」とは、根本的な概念を基に形成される概念的枠組みのことであり、個々人によって決まってしまうことのない確かな「見方・考え方」（あなたの考えでも、時代の見方でもない！）のことである。そのことを例えば、新学習指導要領では、経済の学習について、『一般に、人間の要求は多様で無限に近いもので

あるのに対し、財やサービスを生み出すための資源は有限であり、生み出される財やサービスもまた有限である。そこで、所得、時間、土地、情報などの限られた条件の下において、その価格を考慮しつつ選択が行われるという経済活動がなされるのである。』※また、『あるものをより多く生産・消費するときには、他のものを少なく生産・消費しなければならないことがあることに気付かせることが必要である。』※などということを取り上げ、経済を考える際の根本的概念である希少性から、様々な制約の中で資源を最大限有効に活用するという「経済的な選択」という概念的枠組みを導き出すことを示唆していたり、基本的経済概念であるトレード-オフから様々な経済的事象を捉えることの大切さに気付かせたりすることを説いており、最終的には、「経済的な見方・考え方」を身に付けさせることを求めているのである。

II. 思考・判断・表現

次に、筆者は、評価の観点の見直しについても、注目すべきであると考えている。従来は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点であったものが、教育基本法の改正の趣旨を踏まえ「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点到に変更されることになる。このことについて「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(文部科学省)においては

『思考・判断・表現として、従来の思考・判断に表現を加えた趣旨は、この観点にかかわる学習評価を言語活動を中心とした表現にかかわる活動や児童生徒の作品と一体的に行うことを明確にするものである。このため、この観点を評価するに当たっては、単に文章、表、図に整理して記録するという表面的な現象を評価するものではなく、例えば、自ら取り組む課題を多面的に考察しているか、観察・実験等の分析や解釈を通じ規則性を見出しているかなど、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつも、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するものであることに留意する必要がある。』(*2)として、次のような視点から評価していくことを求めている。

- 収集した資料から合理的基準を設定し、有用な資料を選択しているか。
- 資料から事実を正確にとらえ、また公正な判断をする際の材料としているか。
- 資料・データが、どのように思考・判断を行う際の根拠となっているか。
- 資料の分析、比較検討(共通点・差異点)などを通して、どのような問題や課題が明らかになったか。さらに、どのような予測ができるか。

- それを基に解決のためにどのような話し合いがもたれ、どのように話し合いが発展したのか。その上で、第三者に学習で得た結論だけでなく、その結果を導き出した過程をより分かりやすく効果的に示すことができているか。※

要約すれば、“思考・判断・表現”という評価では、その過程から発表までを取り込みトータルに、思考・判断した内容を表現する力が備わっているか”ということが問われているのである。そして、この言語活動の充実から育まれる「思考力・判断力・表現力」を身に付けることこそが、新学習指導要領で強く求められている資質や能力を獲得することにつながっていくのである。

さて、このように「見方・考え方」「思考・判断・表現」を捉えるなら、株式学習ゲームにおいて、「動く株式を、動かない(ぶれない)眼で捉えることができる資質や能力(⇒経済的な見方・考え方)」、「投資においてカギを握る有用な情報を収集・選択し、見方・考え方(基礎・基本として身に付けた基本的経済概念から形成される概念的枠組み)を基に分析し、結論に至る過程も含めて思考力・判断力・表現する力(⇒思考・判断・表現)を養う学習」そのものが、まさに新学習指導要領を読み解きその趣旨を取り入れる学習となり、さらに、株式学習ゲームの有用性を遺憾なく発揮させる学習となるのである。

3. 株式学習ゲームでは、どのような学習内容、学習指導の展開が求められているのだろうか。

さて、いよいよ株式学習ゲームにおいて、新学習指導要領の趣旨を取り入れた学習内容、学習指導の展開、さらに評価、すなわち実践がどのようになされるかを具体的にイメージしてみたい。

* 株式自体や株価の動きを、基本的な知識や概念を活用し捉えさせる。

(株式自体の見方・考え方を確立する。⇒なぜ株式・株式会社の仕組みが生まれたのか、この仕組みがいかに画期的な発明であったのか、どうして現在でも継承され、どのような役割を果たしているかを理解させる。⇒さらに株価が、様々な要因によって動くことを、理解させる。)

* 様々な資料・データから有用な情報を選択し、例えば共通点や差異点に注目して分析をすることによって、金融や経済における法則や規則性を発見させる。

* 現代社会・経済の特徴(株価では、特にグローバル化など)に注目させるととも

に、社会・経済の現在・過去について分析し・未来を予測させる。

* ニュースや新聞記事といった生き生きした事実を、タイムリーに取り上げ、見方・考え方と併せて、多面的（状況・要因など）、多角的（様々な立場からの見方）な視野を養わせる。

（ここでは、新しい出来事から新しい考え方や、制度・仕組みができることがあるということにも注目させる。）

* 基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等で表現させる。そのため、知識・技能を活用する、論述、発表や討論、レポートの作成といった新しい学習指導要領において充実が求められている学習活動を積極的に取り入れ、学習指導の目標に照らして実現状況を評価する。※

従来から、株式学習ゲームでは、【私たちの応援したい会社】のワークブックで、株式を発行している大元である会社を捉え、その業績や新製品の開発、外国為替と輸出・輸入、社会的貢献（CSR）・メセナなどに注目し、自分たちで応援したい会社を選定し分析（その方法については、後述する。）する。それを基に思考したアイデアを会社に伝えよう！という学習のスタイルを提案し、視点や根拠を明確にすることで、株式学習ゲームにおける学習をさらに深める取り組みを提示してきたが、今後は

* まず、株式を発行している会社を分析（テーマに分け、整理する）し、それを基に自分の考えをまとめ判断すること

* 株価に関するいろいろな情報を自分なりに分類・整理し、さらに株価が上昇している株式、下落している株式というような点にも注目し、それぞれに共通する法則や、規則性を見出そうとすること

* 会社にとどまることなく日本や、世界の（グローバルな）金融・経済の様子などを、多面的（いろいろな条件・要因）・多角的（立場を変えて）に見て、考え判断すること

“ **なぜ株式を売買したのか。** ” その根拠を明確にし、思考のプロセスをも含めレポートや、プレゼンテーションで表現すること

ということに重点を置いた学習を進める。さらに株価から見えてくる会社・経済・社会の動きの根本を明らかにすべく探求していく過程において、浮かび上がった課題や問題の解決策を考えていくために、ゲームから得られた有用な情報・データと概念的枠組みで

ある「見方・考え方」を併せて活用し、分析を試み(その際、どのような基本的経済概念を活用するのかを自分で選択できることが重要！ 本論文P2の①と②の学力が互いに補完しあいながら相乗効果を高める具体例)、会社・経済・社会に対して株式(株価の動き)が与える影響や意義についても論述、討論などを通して表現する活動(レポートやプレゼンテーションなど)を取り入れる。そうすることによって、株式を取り巻く金融・経済を考える際の本質に迫っていく学習へとつなげていくことが可能となる。

具体的実践例 株式の中に隠されている秘宝を探そう！

インディー・ジョーンズは好きですか。秘宝を手に入れたくはありませんか。今回のゲームは、いわば宝探しです。しかし、それはキラキラ輝く黄金の宝ではありません。知恵の宝です。世界の金融や経済は今やグローバル化の中で、激動の時代を迎えています。このような時に、もし、金融や経済の仕組みや働きをぶれることなく見つめられるレンズがあったら！ そう願わない人はいないはずです。このゲームは、君たちに、金融や経済を見るためのぶれないレンズという秘宝を授けてくれることでしょう。

I ツール・・・株式学習ゲーム

II 与えられた時間・・・6～8時間

1～2時間目。「興味ある会社の株式を購入しよう」「会社を応援しよう」

3～4時間目。「株式を売ったり買ったりするその時に、見えてくる」「なぜ、売買するのか」

(夏休みの)宿題として株式学習ゲームに取り組み、レポートを提出する。

5～6・8時間目。

「気付いたこと、分かったこと、発見したこと。それが魔法のレンズ！」

さらに、レポートに基づくプレゼンテーション⇒株式学習ゲームの感想文応募

III 授業展開例

1～2時間目

「興味ある会社の株式を購入しよう」

HOW TO GAME⇒ゲームのマニュアル

①パソコンに「株式学習ゲーム」と入力→検索を押す

売買の単位数を間違わないように情報を見る！！

***いよいよ、会社の株主になって、秘宝探しがスタートだ！！**

3～4時間目

「株式を売ったり、買ったりするその時に、見えてくる。」

“なぜ売なのか、買うのか”ゲームを活用して根拠を明らかにしよう“

- ①パソコンに株式学習ゲームと入力→検索を押す
- ②株式学習ゲームのトップページをクリック(出てきたサイトの一番上)
- ③トップページの右下のリンク集、「日経ネット」をクリック⇒「日経マネーアンドマーケット」のウインドーを開け、その後パソコン右上(－)で小さくしておく。
- ④ログインをクリック
- ⑤学校コード、学校パスワード、チームコード、チームパスワードの4つのコードを順番通り入れて、画面下の送信をクリック
- ⑥インターネット利用チームメニューの下の取引結果一覧をクリック
- ⑦前回、買った株の銘柄コードと株数を控える。(後で必要)

例 会社(ローソン)コード[2651]株数<1000>

会社()銘柄コード[]株数< >

会社()銘柄コード[]株数< >

会社()銘柄コード[]株数< >

⑧取引結果を見て、前回購入した株式のうち、売るか、さらに買い増すか、新しい株式を購入するかなどの判断をする際の根拠となる資料を収集しその中から有用な情報を選択し、それを基にゲームを行う。

***“なぜ売なのか、買うのか”自分の考えをまとめる際のポイント**

ポイント1株式を発行している会社の情報を、次の項目に分類・整理し考えよう。

・会社のお金のことから⇒利益は？ これからの見通しは(今期の予想・来年は)？

・会社の製品・サービスのことから⇒他社と比べてどのように優れているのか(差別化)を比較検討すること。コンビニなら店舗の品揃えなども。新製品の開発は？

・会社を取り巻く、日本やグローバルな経済・社会のことから 為替相場は、円高・円安？それに伴い応援したい会社は、輸出・輸入中

心？原料・材料は海外調達？ アメリカやEU、中国の経済は？

・社会的責任のことから⇒私たちの暮らしの中でどのような責任を果たし、貢献しているのか。

このように、株式を発行している会社を分析(4つの要素に分け内容を整理する)し、それを基に応援したい会社について自分の考えをまとめること。

ポイント2 株価に関するいろいろな情報を自分なりに分類・整理し、「株価が上昇している企業と、下落している企業」などというように差異点や共通点に注目し、その動きの理由を明らかにしようとし、さらに、それぞれに共通する法則や、規則性を見いだそうとすること。

その際、短期的(前回と比較)、長期的(夏休み前と後、または1カ月後)という時間的視点を加えるとより見つけやすい。

ポイント3 いろいろな状況(日本にとどまることなく、グローバルな金融・経済の様子など)を、多面的(様々な条件や要因など)・多角的(立場を変えるなど)に見て、考えること。

*自分の考えを整理するため図や表、関係図を書いておくこと。

⑨自分が判断した結果、売る・買うことにした株式について、会社のコード・売買単位・現在の株価を、控えたメモや株価検索・業種から探す。

売る会社		買う会社	
(銘柄)のコード[]	(銘柄)のコード[]
売買単位[]	売買単位[]
現在の株価[円]	現在の株価[円]
株数<	>	株数<	>

⑩インターネット利用チームメニューの下の売買データ入力をクリック

売に印をつける→銘柄コード、株数入力で売る。

買に印をつける→銘柄コード、株数入力で買う。

総額が資産合計を超えないことを確認。

⑪最後に画面下確認を押す→確認画面→送信→ログインのページに戻る

*株式に関する情報を、分けて整理し、それらをいろいろ角度・方面から見よう。

宝は、株式の中に隠されています。あせらず、ゆっくりあたためておきましょう。その間に自分が気付いたこと、わかったこと、発見したことをメモにして、レポートの準備をしておきましょう。

新聞記事やテレビのニュース(特に株式を購入した会社関係の情報)が大きなヒントになるはずです。

5～6・8時間目(夏休み後、または、1ヶ月後ぐらい)

株式学習ゲームをツールとして、新学習指導要領の趣旨を取り入れた授業のまとめ
「気付いたこと、分かったこと、発見したこと?それが魔法のレンズ!」

気付き=これなあ～に、どうして?

分かる=こういうことか。なるほど!

発見する=そんな決まりや法則が隠されていたんだ!

生徒のレポートでは、“気付き、分かり、発見する”過程を通して、次のような「経済的な見方・考え方」が取り上げられていることが重要である。

- * 株価(価格)上昇・下落の大きな要因として会社の業績・予想に気付く⇒ミクロの視点
- * 他社との比較を通して、差別化などの企業努力に気付く⇒独占的競争
- * 株価上昇・下落の大きな要因として、グローバル化などの現代社会・経済の特徴に気付き、株価を通して、世界と日本を多面・多角的に捉え考察する⇒マクロの視点(加えて金融・財政政策なども)
- * 外国為替と企業業績の関係に気付き、株価の大きな動きをつかむ⇒国際経済の視点
- * 企業の情報公開の重要性に気付く⇒情報の非対称性、インサイダーの排除
- * 金融の特徴を掴みハイリスク・ハイリターン、ローリスク・ローリターンについて理解する。
⇒直接金融(投資)とは、自己意思決定に従って、リスクを引き受けること。－ハイリスク・ハイリターン
⇒間接金融とは、金融機関が審査を通して、リスクを引き受けること。－ローリスク・ローリターン

アンダーラインのような「見方・考え方」(魔法のレンズ)が、株式学習ゲームをツールとして生徒から引き出せるような授業(経済用語を教える必要は全くない。生徒が概念や概念的枠組みを身に付け、その「見方・考え方」から捉えているかが重要なのである。)の

構造化ができれば、金融や経済の学習を新学習指導要領に即したものにグレードアップすることが可能となる。そのためには今回の改訂の趣旨を踏まえ、

「株式学習ゲームにおいて、生徒が自己意思決定を行う際、どのような経済的概念を活用して、見て、考えようとするのか。」

最終的に、「株式学習ゲームで、何を学ばせるのか。」

ということを教師自身が、一層明確にしておく必要がある。その上で、討論や論述、レポートやプレゼンなどの内容を思考・判断・表現という観点で評価していくことで、新学習指導要領の趣旨を取り入れた学習内容、学習指導の展開、さらに評価となるのである。

4. おわりに

株式学習ゲームの教材説明会で、担当者の方が「株式(学習ゲーム)を学ぶのではなく、株式学習ゲームで金融・経済を学ぶのです。」と解説されていたのが、印象に残っている。その言葉を借りるなら、本論文が目指す株式学習ゲームに対するアプローチは、「株式学習ゲームで動く株式を動かない眼で見つめる学習」とでも改めていうことができよう。すなわち、この激動の時代だからこそ、様々な問題・課題に対して、主体的に判断し対応できる“ぶれない眼を持った生徒”を育成することが重要なのである。そして、結果として今起きている生き生きした事実である世界の金融・経済の事象でさえ、本学習から得られた概念的枠組みとしての「見方・考え方」を活用し、そのぶれることのない視点から、本質へと迫っていくことが可能となる。

さらに、重要なことは、第三者に学習で得た結論だけでなくその結果を導き出した過程をもより分かりやすく効果的に示すことができる学力としての「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることである。なぜならそのことが、今後一層グローバル化が進む未来において世界に通用する日本人を育てることにつながっていくのであるから。そして、この論文で取り上げたような学習内容・学習指導の展開を進めていけば、必ずや株式学習ゲームは、その一翼を担うことができると確信している。

最後に、投資を考える際の良書といわれる『ウォール街のランダム・ウォーカー』という本の著者バートン・マルキールの言葉を取り上げたい。彼は、「成功する投資家というのは、非常にバランスのとれた人格の持ち主で、自然な好奇心と知的興味を駆使し……」と述べている。新学習指導要領において、金融・経済教育の充実が図られようとしている今こそ、アイデンティティ確立に動き出した中学生に対する投資に関わる教育

は、マルキールの言葉の意味をしっかりと読みしめ、人間としての成長に深くかかわりながら慎重に実践されなければならないことを明記しておく。

執筆にあたり

(※1)平成19年度の中央教育審議会教育課程部会「教育課程におけるこれまでの審議のまとめ」(平成19年11月7日付け)のパンフレット

(※2)「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(文部科学省)

本文中の※の部分、すべて中学校新学習指導要領(平成20年3月告示 文部科学省)

からの引用である。